

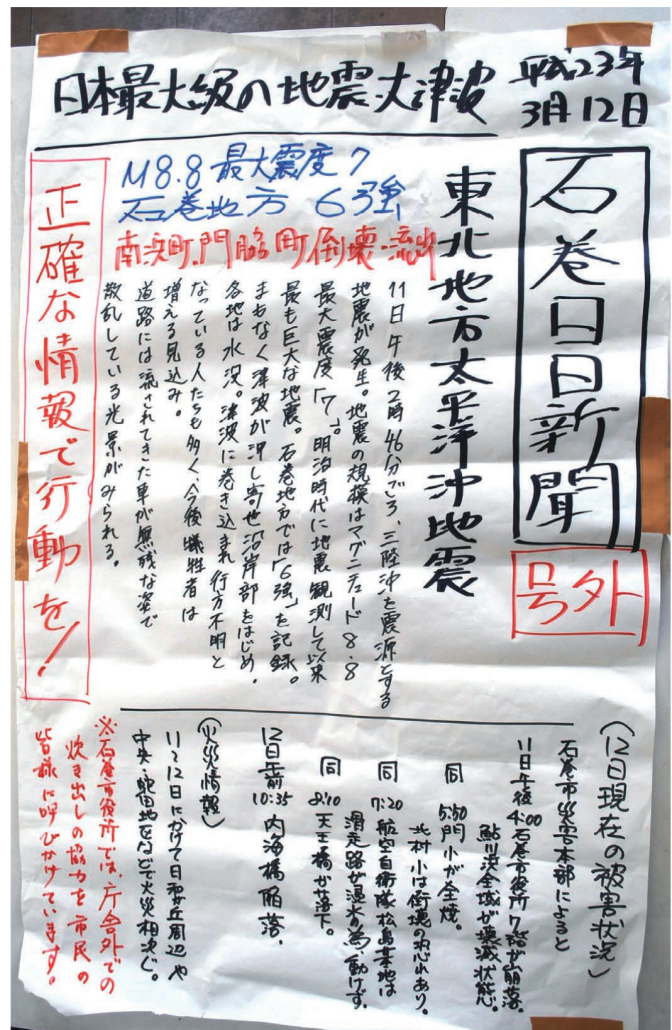
17 新聞をありがとう

大きな^{さいがい}災害が起きた時に、どのように^{じょうほう}情報を集めるか考えよう。



3月11日の地震と津波により大規模な停電が発生しました。電話やテレビ、スマホやWi-Fiなども使えなくなり、人々は石巻全体の様子を知ることができません。

そんな中、「石巻日日新聞社」は地元の住民に正確な情報を伝えようと努力しました。右がその新聞です。新聞を印刷する機械が動かない状況で自分たちが「できること」「やるべきこと」を探し、6人の記者たちが自ら歩いて集めた情報を、手書きの新聞にして伝えました。



平成23年3月12日発行 石巻日日新聞（手書き）

○石巻日日新聞社の取り組み

取材を続けている新聞記者に対して「石巻市内の様子はどうなっているのか」「電気やガスはいつ復旧するのふっきゅうのか」といった情報じょうほうを求めてくる人もたくさんいました。みんな自分たちの町がどうなっているのかを知りたがっていました。自分たちが自ら歩いて集めた情報じょうほうを何としても人々に伝えたい。

震災しんさいの様子を後の世代の人たちに伝えることで防災意識ぼうさい いしきの向上さいや災害がいに強い街づくりにつながることも期待していました。

※「6枚かべの壁新聞 石巻日日新聞・東日本大震災7日間の記録しんさい」より

手書きかべの壁新聞の一部はアメリカにある報道博物館ほうで展示されています。「電気も水道もガスもない極限的な状況きょくげんてきで情報じょうきょうを伝え続けた彼らは、新聞記者のお手本だ」(博物館担当者たんとう)として世界的にも石巻日日新聞社の取り組みが高く評価ひょうかされました。

○情報じょうほうを知らせるために

石巻の情報じょうほうを知るために多くの人が活用したのがラジオでした。「ラジオ石巻」は地震発生直後から安否情報あんびじょうほうを伝えました。その後は電気やガスなどの復旧ふっきゅうや支えん活動など地域ちいきの情報じょうほうを伝えました。



話し合おう

- 大きな災害さいがいが起きた時にあなたならどのような方法じょうほうを使って情報じょうほうを集めますか。また、どんなことに注意ひつようする必要がありますか。
